

一隅を照らす
人間になろう

天台宗

法性寺

にて

道心を学ぶ！



山号	和田山(わださん)
宗派	天台宗
本尊	大日如来
創建年	1016年(平安時代中期)
開基	暹賀(せんが) 比叡山第22代天台座主
住職	野田賢宏
住所	岡崎市法性寺町上屋敷

◆山門

寺の西側に小さめの山門があり、山門の両脇には仁王像がある。仁王像の背面には「法性寺六坊」と記されている。岡崎市では、滝山寺・真福寺の仁王像に次ぐ、貴重な文化財の仏さまである。



山門の奥に本堂が見える。

天台宗(てんだいしゅう)；法華経を根本經典とする大乘仏教の宗派のひとつ。575年隋の「天台大師」智顛(ちぎ)が、(中国の)天台山にこもって大成。天台教学(理想と実践哲学)は奈良時代に唐僧鑑真によって日本に伝えられ、奈良で勉強をしていた「伝教大師」(最澄)の目にとまるところとなった。最澄は遣唐使と共に危険を冒して中国に渡り、天台山を尋ねて、研鑽を深め帰国後、比叡山に延暦寺を建て開宗。多くの日本仏教の宗旨がここから展開した。天台宗では、天台大師を『高祖』、伝教大師(最澄)を『宗祖』と呼んで尊崇している。



野田住職曰く“気づかずに通り過ぎてしまう、目立たないお寺”だが、かつては、七堂伽藍を備えた大寺院であった。山門を入ると右に『一休さん』が鎮座している。“知恵と元気を下さい一休さん”とお願いしながら一休さんと自分の頭を交互に撫でる。



※第2回目の訪問先の「法性寺」。会員の皆さんが集まってきました。車・自転車・徒歩…

9:37

9:44

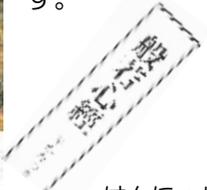
9:50



◆本堂



今日は、野田
住職からお話
をいただきます。



はんにゃしんぎょう

般若心経（般若波羅蜜多心経）；仏教における經典のひとつ。300文字にも満たないわずかな文字数で、大乘仏教において重要な「空（くう）」の思想が説かれているのが特徴。法相宗・真言宗・天台宗・禅宗を中心として、仏教の多くの宗派で読まれている（その宗派独特の解釈を行っている）。基本的に般若心経を読まない宗派には、浄土真宗・日蓮宗がある。
 〈参考資料1 参照〉

【野田住職のお話】

“本日は、山田さんからお話をいただきまして、おいでいただきました。10時から11時半までということで、結構時間がありますが、この寺には特に何もなくて、私は話をする知識も持ち合わせていませんので、どうしたものかと思いましたが、まずは、比叡山の話させていただきます。”

【比叡山について《お話のポイント》】 [詳しい中身は、「詳細版」をご覧ください。](#)

「比叡山」延暦寺は、日本の信仰の中心地となる特別な寺

- 「天台宗」の総本山。平安仏教の中心地。山岳信仰の聖地。
 “（比叡山は、末寺は少ないですが）観光でお寺を訪れると、宗派が天台宗だったのか、というのは多々あります。三千院・寛永寺・中尊寺・善光寺・浅草寺・四天王寺…”
- 比叡山は、京都の鬼門（北東）鎮護の役割を担っている。
- 比叡山は、日本仏教の母山。
 鎌倉時代の新仏教を開いた各宗の開祖は、皆、比叡山で修行・出家得度している。
 法然上人（浄土宗）、栄西禅師（臨済宗）、親鸞聖人（浄土真宗）、道元禅師（曹洞宗）、日蓮聖人（日蓮宗）…
- 比叡山では、根本中堂が一番の本堂（総本堂）。
- 比叡山延暦寺は、お寺をさすのではない。
 比叡山山内の境内地に点在する堂宇の総称。延暦寺という一棟の建造物があるわけではない。
- 比叡山は、景観が素晴らしい。
 ドライブウェイもケーブルカーもいい。
- 比叡山「延暦寺」は、ユネスコ世界文化遺産。

野田住職のわたくしごと

住職は、高校は比叡山でした。その時代の修行中の写真が、比叡山のパンフレットに載っていたのを見つけたそうです。18歳くらい、55年も前の貴重な記録です。

先頭です



番外
開山伝教
鎮国の道
山」「修
材養成
この努
鎌倉仏
比叡山
あるが

居士林修行者

【法性寺について — 野田住職のお話から】

「和田山 法性寺」の歴史



■平安時代中期に創建（初めて建てる）。

平安時代中頃になると、都の文化や宗教が地方の暮らしにも影響を与えるようになってきた。天台宗も地方に広がり、法性寺は、天台座主第22代・暹賀（せんが）がこの地を淨地（寺を建てるのに適した土地）として選び、創建した。長和5年（1016年）と言われる。法性寺は、一山六坊の七堂伽藍を備えた大寺院だった。

「一山（いっさん）」＝同一の境内にある本寺、末寺などすべてを含めた寺院の総称。「坊」＝小院・僧の住居。「七堂伽藍」＝寺の主要な七つの建物のことであるが、単に多くの建築物を擁する大寺院を表すことも。

法性寺の六坊は、定光坊・杉本坊・蜜祥坊・中ノ坊・蜜巖坊・大円坊。

■室町時代の終わりごろ、松平広忠（徳川家康の父）が一山六坊を甲山寺に移す。

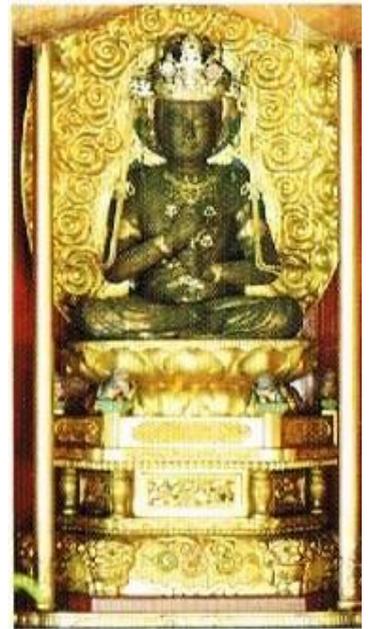
六坊のうちの一つ「定光坊」の住僧・永玖は学識があり、岡崎城主松平広忠が深く帰依していた。永玖は、広忠から妻於大の方に男児が授かるよう鳳来寺の薬師如来に子授けを祈願することを命じられ、その先達を務めた。祈願の結果誕生したのが、後の徳川家康である。その功によって、法性寺六坊は、広忠によって、天文13年（1544年）に、岡崎城鬼門の守護である甲山寺（現六供町）に移された。

■大日堂（と庫裏）は、村民の願いによって残る。本尊は「大日如来」。

六坊は甲山寺に移されたが、村人の願いにより、本尊「大日如来」を祭る大日堂は残された。大日堂は、小さなお堂であった。法性寺は、わずかに大日堂だけが残り、ここが現在の法性寺の堂宇（本堂）となっている。

（今は継ぎ足して、少し広くなっている）
大日堂は、甲山寺の住職の兼務で存続したが、それ以後、長い間空き寺となり、時代の変遷をたどり、かつての姿はほとんど残していない。徳川家康は、1603年に甲山寺本堂を再建するのあたり、法性寺（大日堂）の仁王像二体を甲山寺に移した。その際、朱印地を、甲山寺に250石、法性寺に17石与えた。（松林寺朱印地5石、大聖寺朱印地23石2斗…）

“私の父親は、甲山寺からこの法性寺に入りました。それまでは無住（住職がない）寺だったんです。甲山寺は遠いので、キーは町内で保管していました。総代が預かっていたんです。”



本尊
大日如来

行基菩薩の作と言われる
〈参考資料7 参照〉

■「仁王像」は、岡崎空襲の直前に法性寺に戻り、難を逃れた！

仁王像は、家康によって甲山寺に移され、長い間、岡崎城の守護神として、鬼門である北東を守ってきた。時は現代になり、岡崎空襲（昭和20年7月20日未明(0時52分から2時10分)）の前日、甲山寺の住職から、現住職の祖父母（野田政次郎・桑津 夫妻）に、“夢枕に仁王さんが現れて、法性寺に帰りたい、と告げられた。至急迎えに来てほしい”と連絡があったので、両人が、大八車を引いて、その日のうちにお迎えして、法性寺に安置した。その当夜の空襲で甲山寺は焼けてしまい、間一髪災難から逃れることができた、不思議な力を持つ仁王像である。

“これはたんなる言い伝えではありません。実話です。私が祖母から聞いています。”



口を結んだ
吽形（うんぎょう）像

◆金剛力士像（仁王像）

- 室町時代末の作。小型（130cm）で珍しい。
- 寄せ木造り。水晶の眼が入っている。
- 背面に「法性寺六坊」と記されている。

いつも対になって諸悪に立ち向かう金剛力士の阿形と吽形は、意志は通い合い、呼吸はぴったり。無言のままでも意志疎通が出来ていることを「阿吽（あうん）の呼吸」と呼ぶのは、金剛力士が由縁。向かって右側に阿形像、向かって左側に吽形像の配置は、通常であるが絶対ではない。（口を確認）

2体で一対



口を開けた
阿形（あぎょう）像

現在の 法性寺

境内の花



ホテイアオイ



フジ

紫の花 2種でした

◆地蔵堂 と 本堂



○地蔵堂は、昔、犬頭神社の鳥居近くにあった。行き交う人々の安穩を願い、馬に乗って来た人は、馬が止まってしまうので、必ず下馬してお参りしたと言われる地蔵様。（この道＝法性寺の南の道は、鎌倉街道だと言われている） 天保13年（1852年）に現在地に持ってきた。

お地蔵さん…現世利益の菩薩。人々の苦しみや悩みを癒してくれる仏さま。

■「本尊」…いろいろお祭りしている。



不動明王 聖徳太子



親鸞聖人



大日如来



薬師如来
観音さま



元三大師
(慈恵大師)

阿弥陀如来

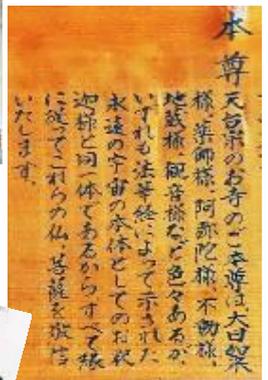
- ◆不動明王 … 大日如来の化身。
- ◆親鸞聖人 … 浄土真宗の宗祖。

“この辺りは、浄土真宗の信者が多いので、その人たちがお参りしやすいようにしています。この本堂の祭壇も本願寺の造りに変えています”

- ◆大日如来 … 秘仏であるため、扉開されるのは、毎年旧正月の28日の法要日だけ。

“法要の時は、お供えの鏡餅でいっぱいになります。神も仏も、餅は特別な食べ物なんですね。半分はおさがりとして貰えます。”

- ◆元三（慈恵）大師 … 第18代天台座主。比叡山中興の祖。おみくじの考案者。鬼のような姿で災厄を降伏して下さる『厄除け大師』の護符は、守り札としておなじみ。



↑〈参考資料3参照〉

■岡崎市には、町名になっている寺が 3カ寺ある。

○三町 = 高隆寺町、真福寺町、法性寺町。中の名前が寺名に由来し、現在もその寺は残っている。（大樹寺…大樹寺町はない。大樹寺1～3丁目。大樹寺の住所は鴨田町。昔、大樹寺村の時代はあった）

※ “ご覧いただいておりますように、当寺には、仁王さん以外に何も無い寺です。いろいろあったのですが、そうしたものは、六坊が移った時に、甲山寺に持っていったはずで、そして、残念ながら空襲で焼失してしまいました。

“時々、寺を訪ねてくる方が、由緒ある寺だから、何かないですかと聞かれますが、「何も無い」と答えるしかありません。

“今日はお越しいただきありがとうございました。地元の研究もいいですが、皆さんそろって、ぜひ、日本仏教の母山である「比叡山」にも行って下さい。”



山田会長

“軽妙な語りでのご説明ありがとうございました。私は節分祭の豆まきに出させていただきますが、実に盛大にやられていました。賄いも若い人が多く、町外から参加されているんです。”

参考資料は、別紙「資料編」を見てください